

地域の高齢化、近所の人たちと話す機会の減少など、地域の人たちの交流が疎遠になりつつあります。住んでいる所に誇りや親しみを持ち続け、お互いに助け合い、安心して暮らし続けるためにどうしたらよいのでしょうか。

昨年度から住民と市職員が一緒になって考える講座を始めました。今年度の第3回、第4回、地区防災まちづくりを開催しましたので、皆さんに報告します。（平成 27 年 12 月）

第3回 地域包括ケアのまちづくり



【プログラム】

○話題提供

- ・常滑市の現状と 10 年後
- ・地域包括ケアって？
- ・常滑市ですでにある取組

○グループワーク

- ・事例提供 「片麻痺で要介護2ってどんなふう？」
- ・支えてくれそうな人、場所、サービスは？
- ・足りないもの、他地区の活用できそうなもの、自分たちでできそうなことは？

○発表

○まとめ

平成 27 年 9 月 26 日（土）、講師に特定非営利活動法人地域福祉サポートちた、代表理事の岡本一美氏と事務局長の市野めぐみ氏を迎えて講座を開催しました。

今回は地区推薦者や一般、市職員の他に、民生委員や高齢者サポーターの皆さんにもご参加いただき 104 人の出席となりました。

地域包括ケアシステムとは？

○団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現。

○保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。

高齢者人口・介護保険料の推計

	平成 27 年度	平成 32 年度	平成 37 年度
全国 75 歳～人口	1,646 万人	1,879 万人	2,179 万人
全国第 1 号被保険者	月額 5,700 円	月額 6,900 円	月額 8,200 円
常滑市 75 歳～人口	7,208 人	7,907 人	8,918 人
常滑市第 1 号被保険者	月額 4,950 円		月額 7,800 円

グループワーク

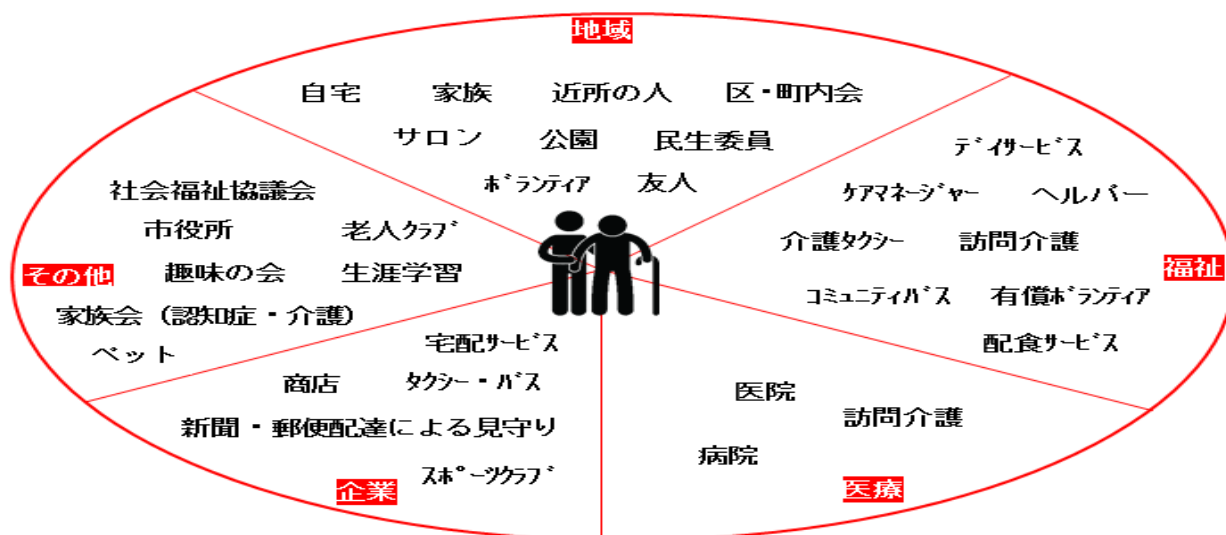
「支えてくれそうな人、場所、サービスは？」
 「足りないもの、自分たちでできそうなことは？」

最初に、NPO法人あかりの濱田さんより、片麻痺で要介護2の事例を分かりやすく紹介していただいた後、2つのテーマについて、グループで話し合い、発表しました。

下図はグループ発表の概要をまとめたものです。



要介護2のあなたの生活を支えてくれるもの（人・場所・サービス）



まとめ（期待すること）

○市民協働で進められること（常滑市市民協働推進委員会 大地会長）

今回提案されたことは、できることがたくさんあります。明日からでも積極的に実行し、確実に一歩一歩進んでいていただきたいと思います。

○NPOとしてみなさんとできること（NPO法人あかり 西村代表）

困りごとを抱えることは、いつでも、誰でも起こりうる。対応の仕方は、地域によって、個人によって違う。助けが必要。情報が必要。行政だけに頼らず、一人ではできないことも、仲間を作り、しくみを作っていく必要がある。

○困ったときはお互い様の関係づくりのススメ（NPO法人地域福祉サポートちた 岡本代表理事）

家族だけでは大変。家族を支援するサービスが必要。要介護2になる前にできることを。いつまでも誰かのために何かができることが幸せ。地域活動、地域づくりが必要。居場所づくり、買い物支援など、生活を支えていく伴走型の支援などを地域ごとにやってもらえるとよい。地区の特徴をいかして進めてほしい。

アンケート結果

Q1. 本日の講座はいかがでしたか？

とてもよかった・・・31人 よかった・・・29人
 あまりよくなかった・1人 分からなかった・・・0人
 未記入・・・・・・・・・・1人

Q3. 自分が協力できることは何ですか？

○買い物代行、病院への送迎（※主なものを抜粋）
 ○安否確認、ゴミ出し手伝い
 ○傾聴、手話、サロンの協力

第4回 機嫌よう暮らせるまちをつくるために地域組織は何をするべきか ～求められている組織の改編と住民のつながりづくり～



【プログラム】

- 講演会
 - ・全国の動き
 - ・先進事例の紹介
- グループワーク
 - ・常滑市の地域自治組織の課題抽出
 - ・対応策のアイデア出し
 - ・宣言
- まとめ

平成 27 年 10 月 31 日 (土)、講師に乾亨氏 (立命館大学産業社会学部教授) を迎えて講座を開催し、出席者数は 49 人でした。講演は、地域自治組織について、全国の動きや先進事例を中心に盛りだくさんの内容でした。

講演内容の一部を紹介します

○協働して自分もみんなも「機嫌よう暮らせるようにしていく」プロセスがまちづくり。町内加入率は全国的に低下傾向 (常滑市も約 72% で、毎年 1.5% 程度低下) であるが、地域コミュニティの必要性は以前より格段に高まっている。

○地域組織に求められている役割は次のとおり

- ①住民の想いに耳を傾け、
- ②地域の課題を発見し、よくなる方向を見定め、
- ③住民の力を集めて課題解決 (防災・高齢者福祉等) に取り組む組織であり、そのために、
- ④地域住民を束ねて話し合い、地域のことを地域で決めることができ、時として、
- ⑤地域を代表して行政と対等に交渉し協力することができる組織である。

<参考> 近年流行の「協議会型住民自治組織」の形

例：福岡・大阪・伊賀・名張 などなど多数

「真野地区まちづくり推進会」(神戸市) はその先駆的で最も優れた事例

○組織づくりの知恵袋

- ・行政の縦割りにあわせて地域組織も縦割り (各種団体がバラバラに活動)。本当は地域課題は包括的 (例：防災と福祉は一体の課題) なので、協議会型住民組織の形をとる。
- ・既存の地域住民組織は役職にならないと動けない。志がある人材が自由に動ける、自由度の高い機動部隊を、地域住民組織の傘下に作る (常設委員会など)
- ・若い世代や新規転入者をまき込むには、積極的に「あなたに入って欲しい」と伝える姿勢や場が必要。

新規居住者対象の呼びかけ会、関心ごと (子育てや防災・安心安全) でまき込む、気軽に立ち寄ることができる場づくり (〇〇カフェ等)、地域の魅力発見ワークショップ、広報など。



グループワーク

「常滑市の地域自治組織の課題抽出」

(常滑市市民協働推進提言書を読んで)

当事者意識が低い、若者と高齢者との交流が少ない、
問題に気付かない、地域のことに無関心 など

「自分もやりたくなる楽しいアイデア」

地域の人みんなで祝う結婚式、「この指止まれ」祭り(花壇
やゴミ拾い)、子供を集めるイベント(BBQ、鍋、地元 B 級ゲ
ルメ)、全力のあいさつ など



宣言「自分はこれならできる！」

- ・イベントを企画する
- ・自宅周辺ゴミ拾い
- ・友人を誘って地域行事に参加
- ・一日一回雨の日も風の日も町内を散歩する
- ・どんな行事にも意欲的に参加
- ・消防団に積極的に参加する
- ・BBQの実行委員をする
- ・近所を笑顔で散歩する
- ・イベント情報を発信する
- ・矢田万歳をする
- ・多屋海岸で地引網をする
- ・イベント情報の看板を作成
- ・ボランティアに参加する
- ・草刈り、芝刈り、竹伐りする
- ・空き缶、ペットボトルポイ捨て対策をする
- ・婚活パーティーに参加する
- ・地元の神社へお詣りに行く
- ・パーティーの演出をする



講評 (乾教授)

出席者が自らリーダーとなってイベントを実現することが大切。自分の専門分野の知識を生かす。地域のつながり、あいさつ、コミュニケーションが大事。「この指とまれ。」でやりたい人を見つける。

今回出席の人達が担い手となって、それぞれの地域で少しずつ当事者を増やしていくことが次のステップにつながる。

問
合
せ
先

常滑市総務部安全協働課(市民協働チーム)

〒479-8610 常滑市新開町4丁目1番地 TEL:0569-47-6108 FAX:0569-35-7879

Eメール: anzenkyodo@city.tokoname.lg.jp